

十三七つ。

七つの海を、

朝から越えて、

南のはてど、

闇の夜になつて、

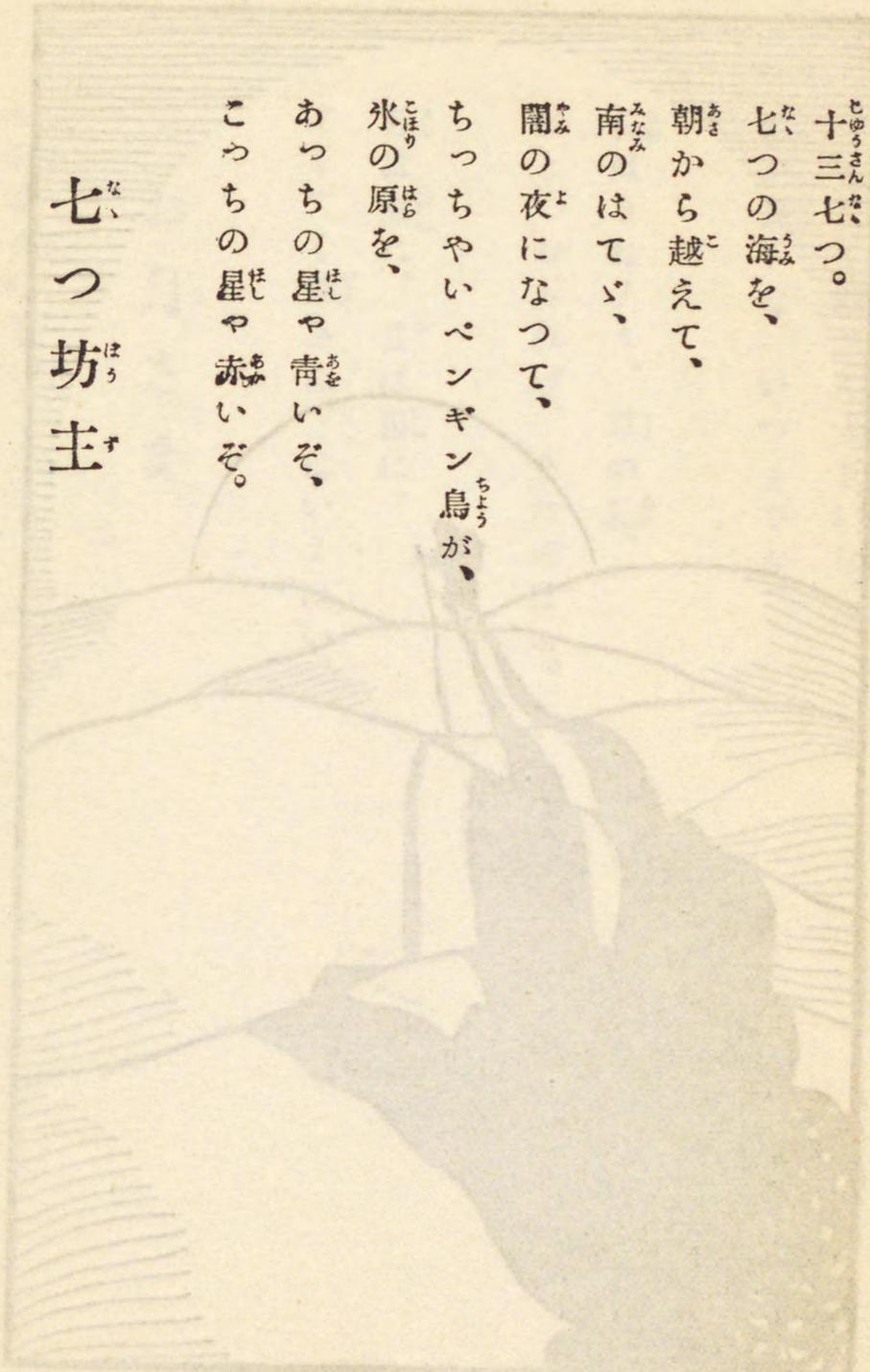
ちっちゃいペンギン鳥が、

氷の原を、

あつちの星や青いぞ、

こつちの星や赤いぞ。

七つ坊主



もう日が暮れる、

逢魔が時よ。

はよはよ、歸れ、

残れば恐い。

一丁目の闇に、

坊主が出たぞ。

ぼつつり、坊主、

ぼつつり、一人。

二丁目にちようめの闇やみに
坊主ぼうずが出でたぞ。

ぽっつり、坊主ぼうず、

ぽっつり、二人ふたり。

連れてけ、坊主ぼうず、

泣なく子こがゐるぞ。

七ななつ坊主ぼうずが、

ぽっつり、ぽっつり出でたぞ。

【註ちゆう】もと、東京とうきやうの街まちでは、日ひが暮くれると、きまつて七ななつ坊主ぼうずと云いつて、七人しちにん連れの坊主ぼうず

が通とほつたものださうです。

ころころころ橋はし

ころくころ橋はし、ころく橋はし、

ころくころげて誰たれが來きた。

ころくころ橋はし、ころく橋はし、

ころくころげて餅もちが來きた。

ころくころ橋はし、ころく橋はし、

ころくころげて海老えびも來きた。

ころくころ橋、ころく橋、
ころくころげて柚子が来た。

ころくころ橋、ころく橋、
ころくころげて羊齒も来た。

ころくころ橋、ころく橋、
ころくころげて春が来た。

すべり橋

お月さんのうへに、

すべり橋かけた。

するりと、光つて、

すべりすべり落ちた。

お星さんのうへに、

すべり橋かけた。

ころ、ころ、光つて、

すべりすべり落ちた。

お嫁入り

馬でおむかへ、お婿さん、

けふは袴かみしも、はいどうぞ。

牛うしで嫁よめ入り、お嫁よめさん、
白しろい綿わた帽子ぼうし、しつたんく。

村むらと村むらとのまんなかで、
空そらは月つき夜よになりました。

牛うしにのりかへ、お婿むこさん、
扇あふぎひらいて、しつたんく。

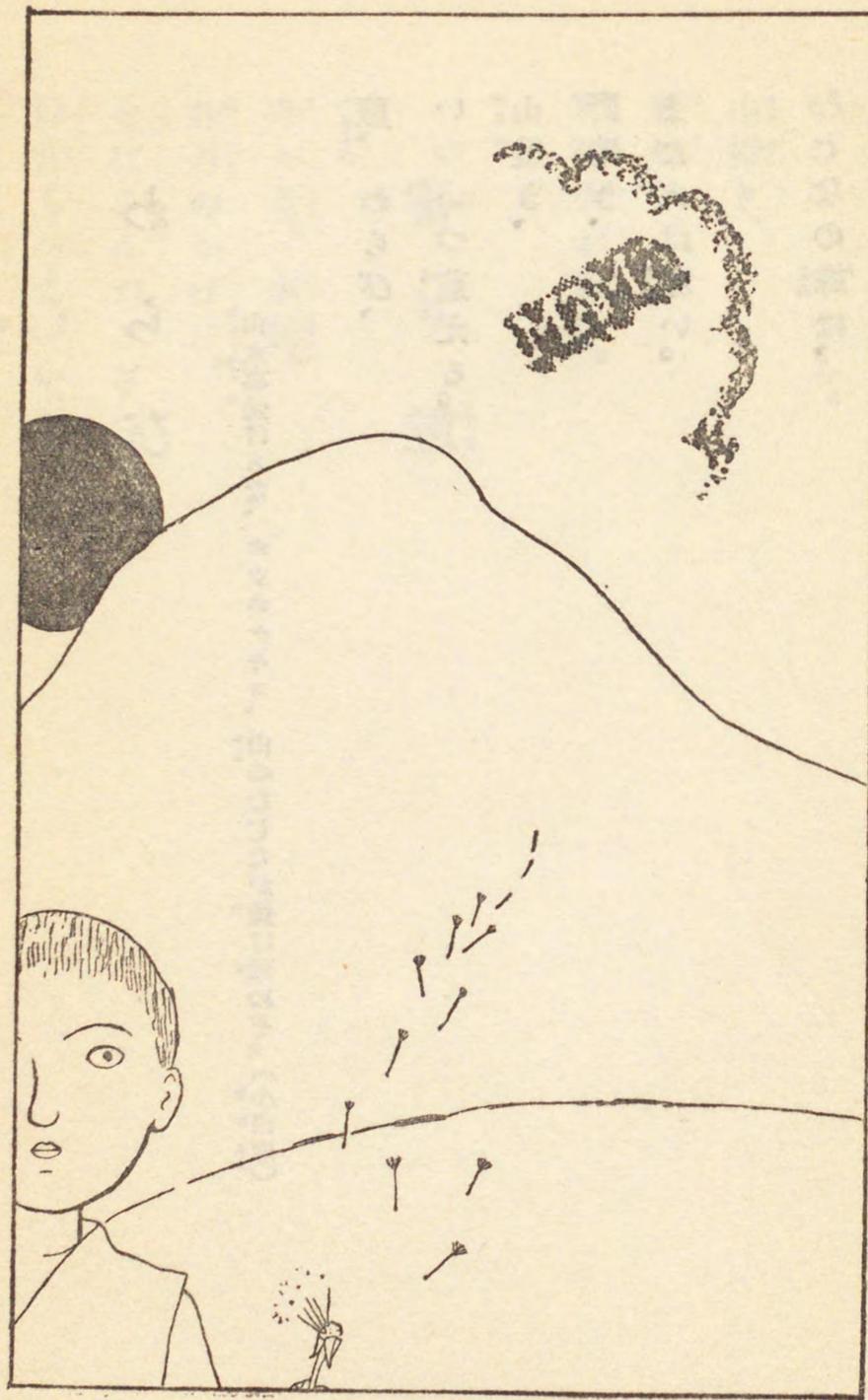
馬うまに鞍くらがへ、お嫁よめさん、
長ながいふり袖そで、はいどうぞ。

嫁よめちや嫁よめちやと、子こ供どもたち、
あかい提ちようちん灯とう ふりたてた。

はいしどうぞ、しつたんく、
やんや、めでたや、ほうやほう。

山やまのあなたを

山やまのあなたを、



見わたせば、
あの山戀し、
里こひし。

山のあなたの、
青空よ、
どうして入り日が、
遠ござる。

山のあなたの、
ふるさとよ、
あの空戀し、

母こひし。

わらび

山火事焼けるな、ホウホケキヨ、山のむじなが焼け死ねぞ。(小田原)

蕨、わらび、

いついつ萌える。

山焼き、

野焼き、

まだ火は赤い。

むじなの嫁は、

いついつ来やる。

山焼き、

野焼き、

夜は火が赤い。

寄り道

寄り道、小道、

牡丹のかげに、

をばさんがござつて、

いたちっこ、いたち、

はようちへ歸れ。

寄り道、小道、

あやめの中に、

をちさんがござつて、

いたちっこ、いたち、

はようちへ歸れ。

陽炎

かげろふ、かげろふ、

なにしてる。

ちらちら、堇をさがしてる。

かげろふ、かげろふ、
なにしてる。
むじなのお宿をのぞいてる。

お晩さん

紅させ、

紅させ、

西のそら、

東は月夜になりました。

紅べにさせ、

紅べにさせ、

お晩ばんさん、

お空そらの母かあさん、日ひが暮くれた。

紅べにさせ、

紅べにさせ、

月つき夜よには、

野の鴨がもも飛とびます、雲くもも出でる。

こぬか雨あめ

こんこん小雨こさめの

ねこやなぎ、

こぬかの小雨こさめがかゝります。

こんこん小雨こさめの

こぬか雨あめ、

こんこんこまかにおしめりか。

こんこん小雨こさめの

ねこやなぎ、

ねんねの寝ねた間まにおしめりよ。

こんこん小雨の

こぬか雨、

明日は堇も咲いてましよ。

こんこん小雨の

ねこやなぎ、

ねんねもすやすやすみす。

あれはときがね

ああれは時鐘、まだ五つ、

まだ五つ、

夜明の明星も出たばかり。

ころころ蛙もまたねたに、

またねたに、

もいちど、ねんねよ、おころりよ。

お夢のつゞきはまた惜しい、

まだ惜しい、

泣いたら消えましよ、ちぎれましよ。

七つのお鐘が鳴るまでは、

鳴るまでは、

とろとろ、ねんねよ、おころりよ。

お日さま見えたらお迎へに、

お迎へに、

牧場のはてまでまゐりましょ。

お日さまお日さま、お土産は、

お土産は、

大きな紅薔薇、パンと乳。

ほうほう螢

ほうほう螢、篠螢、

晝間は赤い豆頭巾、

日暮れはピカピカ、豆袴、

一のお宮で灯を貰うて、

二の宮田圃へ灯とぼしに、

三の鳥居は藪の中、

四の宮くぐれは貉堀、

貉が啼き出しゃ、雨がふる、

はよはよお戻り、夜は凄い、

真夜中過ぎれば歸られぬ。

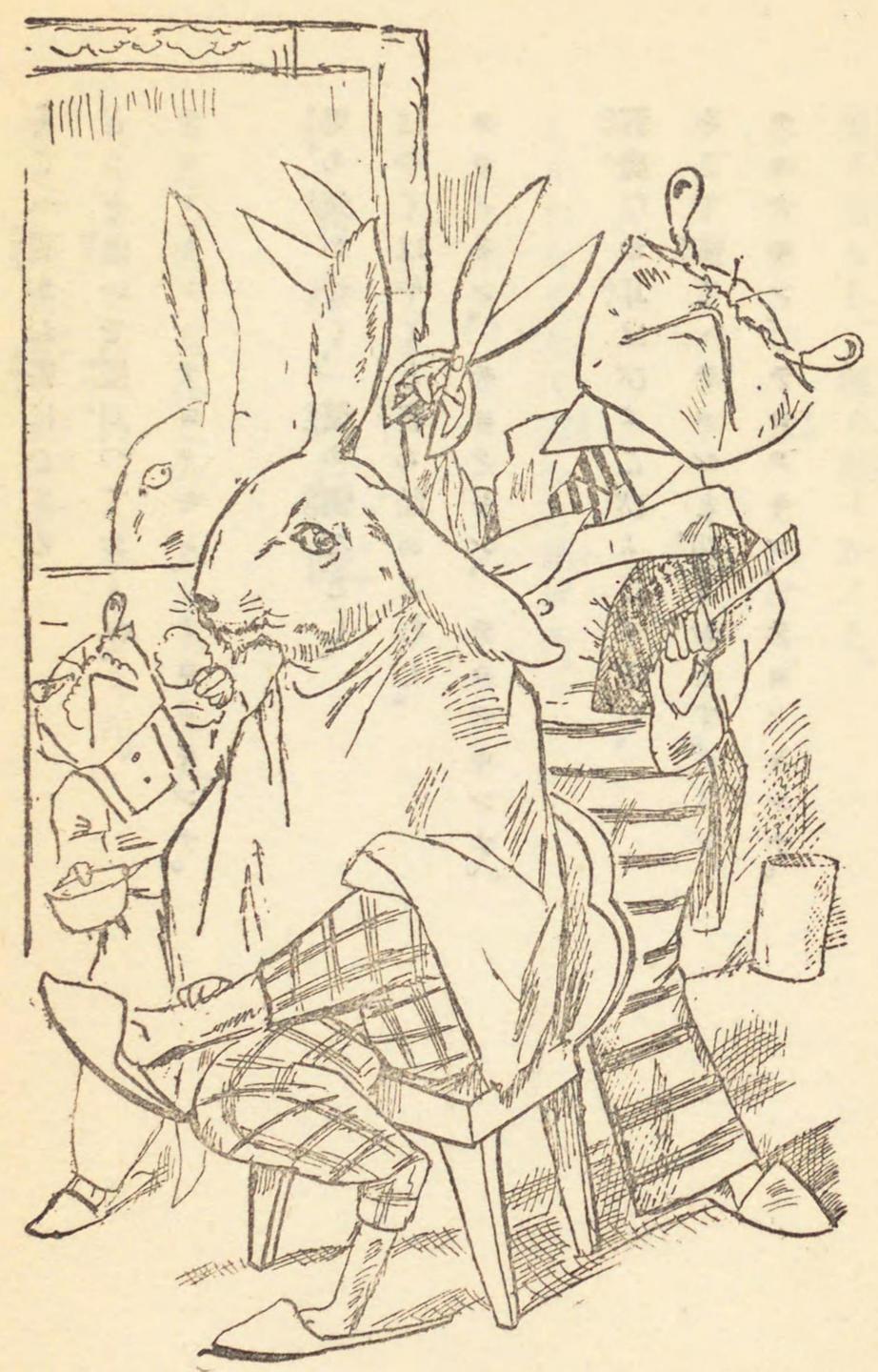
ほうほう螢、篠螢、

水神様はまだ遠い。

あわて床屋

春は早うから川邊の葦に、
蟹が店出し、床屋でござる。
チヨツキン、チヨツキン、チヨツキンナ。

小蟹ぶつぶつしやぼんを溶かし、
親爺自慢で鉄を鳴らす。
チヨツキン、チヨツキン、チヨツキンナ。



そこへ兎がお客にござる。

どうぞ急いで髪刈つておくれ。

チヨツキン、チヨツキン、チヨツキンナ。

兎あ氣がせく、蟹あ慌てるし、

はやくはやくと客あ詰めこむし。

チヨツキン、チヨツキン、チヨツキンナ。

邪魔なお耳はびよこびよこするし、

そこで慌て、チヨンと切りおとす。

チヨツキン、チヨツキン、チヨツキンナ。

兎あ怒るし、蟹あ耻よかくし、

しかたなくな穴へと逃げる。

チヨツキン、チヨツキン、チヨツキンナ。

しかたなくな穴へと逃げる。

チヨツキン、チヨツキン、チヨツキンナ。

ちんころ兵隊

ちんころ、ちんころ、ちりちりちん、

ちりちりちんころ、ちりちりちん。

ちんころ兵隊、喇叭卒、

手毬てまりの中なかに
なにがゐて跳はねる、

てんてん手のなし、

めんめん眼めのなし、

みんなん耳みみのなし、

うさうさ兔うさぎの子こが跳はねる。

一ひとつ追おひ出だそ。

二ふたつ追おひ出だそ。

三みつつ追おひ出だそ。

四よつつ追おひ出だそ。

五いつつ追おひ出だそ。

六むつ追おひ出だそ。

七なつ追おひ出だそ。

八やつ追おひ出だそ。

九こつ追おひ出だそ。

手毬てまりてんてん、雪ゆきこんこん、

遠とほいお山やまの山奥やまおくへ、

十と、とうとう追おひ出だした。

兔うさぎの電報でんぱう

えっさっさ、えっさっさ、

びよんぴよこ兎が、えっさっさ。
郵便はいだつ、えっさっさ。
唐黍ばたけを、えっさっさ。
向日葵垣根を、えっさっさ。
両手をふりふり、えっさっさ。
わき目もふらずに、えっさっさ。
「電報」「電報」えっさっさ。

たあんき、ぼうんき

たあんき、ぼうんき、たんころりん。
田螺がころころ啼いてゐる。

たあんき、ぼうんき、たんころりん。
鴉が田螺をつゝいてる。

たあんき、ぼうんき、たんころりん。
蛙が目ばかり出してゐる。

たあんき、ぼうんき、たんころりん。
ちんちん電車もやつて来る。

たあんき、ぼうんき、たんころりん。
お彼岸まわりもつゞいてる。

【註】「たんき、ぼうんき、たんころりん」は田螺が鴉につつかれる音です。
關東邊の童謡にあります。

かへろかへろ

かへろかへろと
なに見てかへる。

寺の築地の
影を見い見いかへる。

「かへろが鳴くからかあへろ」

かへろかへろと
たれだれかへる。
お手々ひきひき

ぼつりぼつりかへる。

「かへろが鳴くからかあへろ」

かへろかへろと
なにしてかへる。

畑の玉葱

たゝきたゝきかへる。

「かへろが鳴くからかあへろ」

かへろかへろと
どこまでかへる。
あかい燈のつく

三丁さきへかへる。

「かへろが鳴くからかあへろ」

かやの木山

かやの木山の

かやの實は、

いつかこぼれて、

ひろはれて。

山家のお婆さは

ゐろり端、

粗朶たき、柴たき、

燈つけ、

かやの實、かやの實、

それ、爆せた、

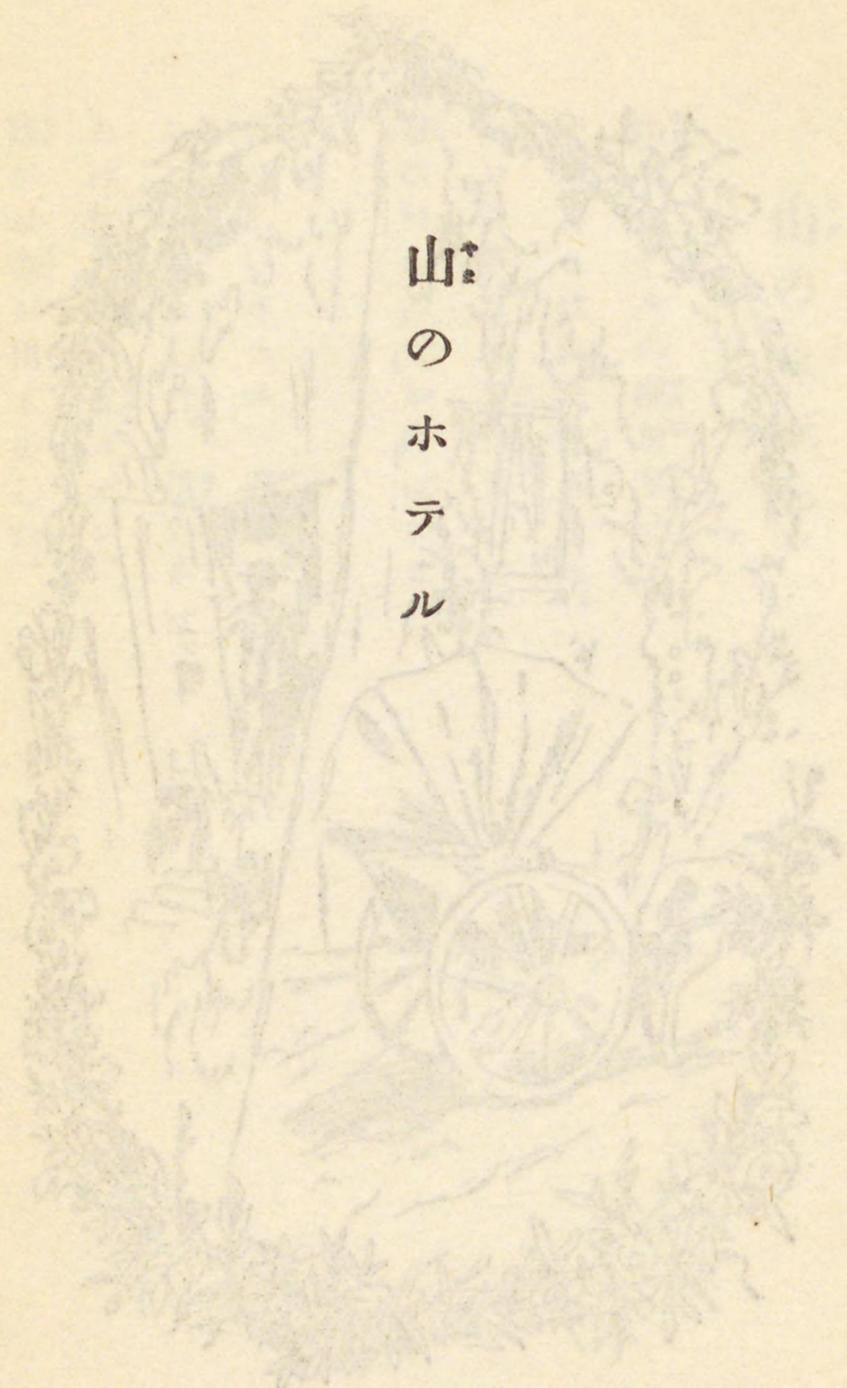
今夜も雨だろ、

もう寝よよ。

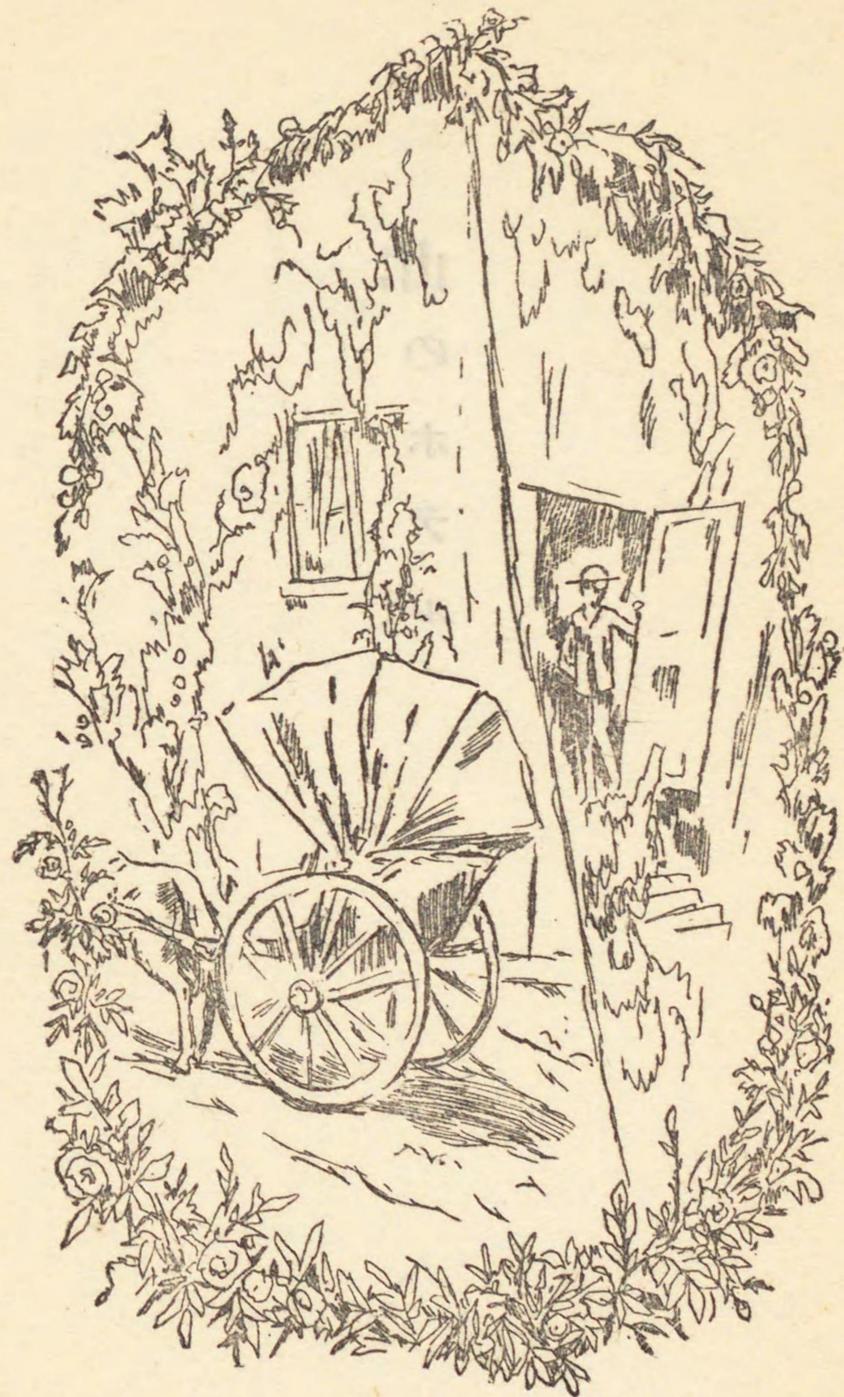
お猿が啼くだで

はよお眠よ。

山の
ホテル



山のホテル
の
歴史
と
風景



山のホテル

山のホテルの幌馬車は、
いつもこはれた壁のまへ。
しめた戸口に日がさして、
晝はゆがんだかげばかり。

まづしいホテル、蔓の薔薇、
いつか見ました、道のそば。
あけた戸口の紅ズボン、
誰かお客が出てました。

追分

からまつはやしの林つゞきに、

ぼつぼつと家いえがあつたよ、

馬うまの繪馬えま、

門かどにかけてた。

白しろい馬うま、黒馬くろや、栗毛くりげや。

追分おひの宿しゆくのはづれに、

ちよつぽりと石いしがあつたよ。

お墓はかなの、

馬うまを祭まつつた。

死しんだ馬うま、かわいそな馬うま。

旅たびびとは西にしへ東ひがしへ、

ほいほいと馬うまで行いつたよ。

あかい日ひが、

原はらを染そめたよ。

小こにだ馬うま、幌馬車ほろばしやの馬うま。

からまつはやしの林はやしつゞきに、

ぼつぼつと家いえがあつたよ。

茶ちやのの花はな

茶ちやの花はな、

咲さく花はな、

島はたしのこ小道みちな。

茶ちやの花はな、

よい花はな、

おひ日より和な、
日ひ和よりな。

茶ちやの花はな、

ちる花はな、

兵へい隊たいさんがチラリな。

茶ちやの花はな、

茶ちやの花はな、

電でん話わ線せんかけたな。

氷こほりのひわれめ目め

氷こほりのひわれめ目め、

月つき夜よには、

びちびち音ねして、

つめたいな。

氷こほりのひわれ目、

裏田圃うらたんぼ、

びちびち音ねして、

風かぜが吹ふく。

春はるまで

子こ供ども

鳥網張とりあみりには夜よが明あけて、

鈴鴨すずがもうつのは日ひが暮くれて、

晝間ひるまは父とうさん草鞋わらぢうち、

母かあさん、正月しょうがついつ来きます。

母はは親おや

鳥網張とりあみつたら、鳥舍とやかけて、

鈴鴨すずがもうつたら、餅もちついて、

みんなのお足袋たびも編あみあげて、

坊ぼうやよ、正月しょうがつちき来きます。

タノミツ

カヘル ガ カヘル ガ ナイテ キル。

タノ ミヅ フエロ、

タノ ミヅ フエロ、

ケロツク ケロツク ヌリアゼ デキタ。

タニシ ガ タニシ ガ ナイテ キル。

タノ ミヅ ヌルメ、

タノ ミヅ ヌルメ、

コロカラ コロカラ タネモミ マイタ。

スイシヤ ガ スイシヤ ガ マハツテ ル。

タノ ミヅ ヒカレ、

タノ ミヅ ヒカレ、

ギイトン、ギイトン、ヒバリ モ アガレ。

てふてふ

てふてふ、てふてふ、

からまつ山は、

まだ日が寒い。

ちらちら飛べよ。

てふてふ、てふてふ、

三月四月、

霧雲はやい。

濡れ濡れ飛べよ、

てふてふ、てふてふ、

から松原は、

もう芽が萌える。

木ぶかく飛べよ、

てふてふ、てふてふ、

ちんころぐさも、

林に赤い。

大きく飛べよ。

白樺の皮はぎ

白樺の皮をはがうよ、

春さきの山の林に。

灌木に鳴くはちやつちやだ、

ほら、枝に横を向いてる。

白樺の皮はくるりと、

手にはげばすぐに巻かるよ。

二輪馬車カタリコトリだ、

ほら、ちやっちや、じつと聴^きいてる。

白樺^{しらば}の皮^{かわ}はしろくて、

ぼちぼちとすちとがあかいよ。

あのちやっちや、かわゆかつたな、

ほら、遠^{とほ}い深^{たひ}で鳴^ないてる。

J^{ヂエイ}・O^{オー}・A^{エイ}・K^{ケイ}

落^おのはやしのかたつむり、

しろいおうちをたてました。

しろいおうちのかたつむり、
角^{つの}のアンテナ出^だしました。

ここは樺^{から}太^{ふと}真^ま岡^{おか}道^{みち}、

馬^{うま}の背^せよりも高^{たか}い落^お。

角^{つの}のアンテナ、かたつむり、

J^{ヂエイ}O^{オー}A^{エイ}K^{ケイ}きいてます。

アイヌの子^こ

大豆^{だいづ}島^{ぼたじ}の

露草は

露にぬれぬれ、

かわいくな。

大豆島の

ほそ道を

ちひさいアイヌの

子がひとり。

いろはにほへど

ちりぬるを、

唐黍たべたべ

おぼえてく。

楡のかげ

楡の木のかげ、

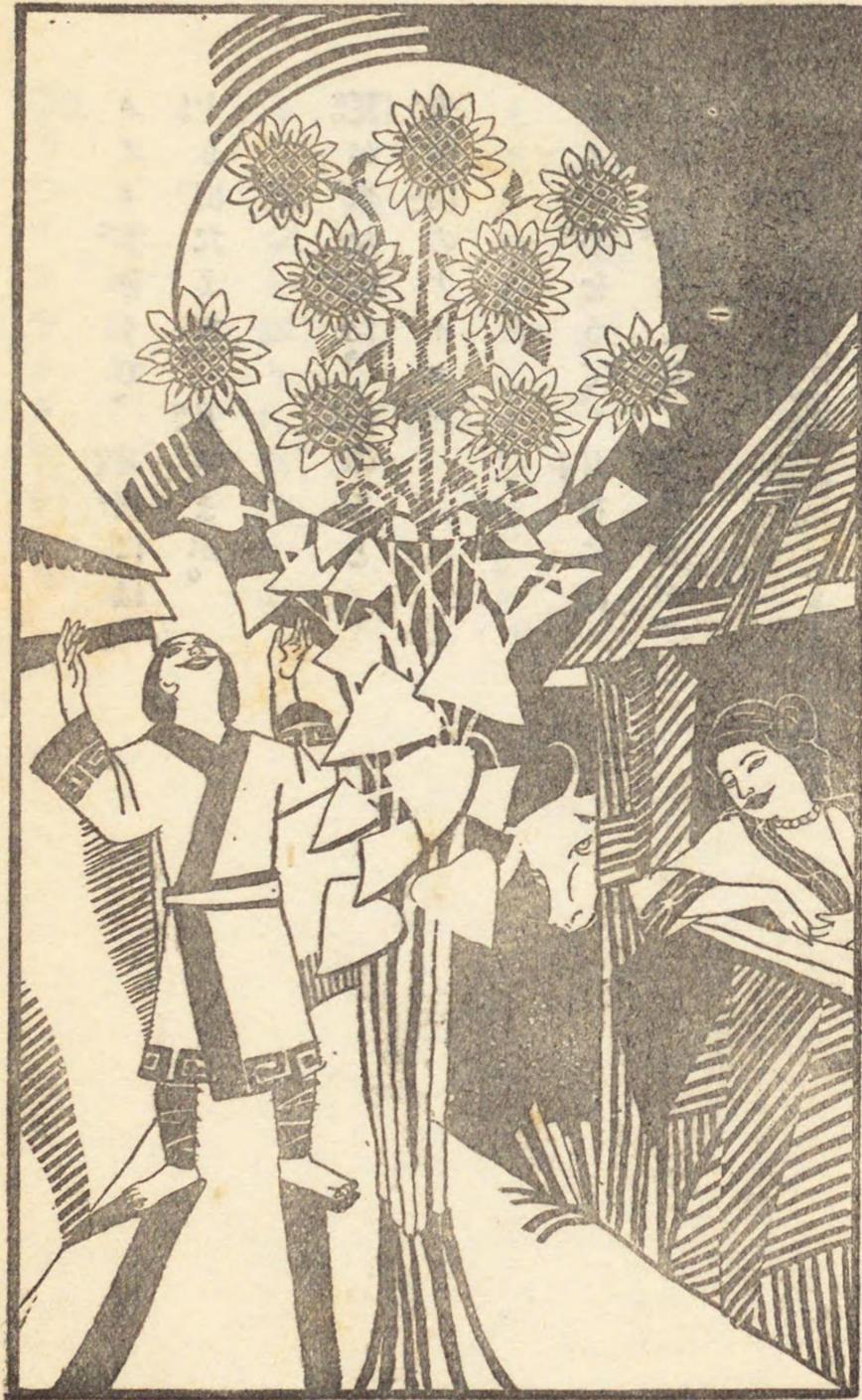
いゝ芝生、

鐘は梢に吊つてある。

農科大學、

ひるやすみ、

みんな寝てゐる、涼しそう。



こゝは札幌、
いまは夏、
風にてふてふも光つてる。

「お時間、お時間、

さあ起きた」

カララン、ラン、鐘が鳴る。

多蘭泊

軒より高い向日葵は
十も出たよだ、お日さまが。

メノコ手をうて、月夜には
十も出たよだ、月さまが。

夏が来た来た、家のそと
多蘭泊のアイヌ村。

メノコ手をうて、月夜には
とをも出たよだ、月さまが。

【註】多蘭泊は樺太の西岸にあるアイヌの村です。

とうきび

裏山で兄と弟よ、

とうきびを刈つてゐたとよ。

熊が出た、わうと出たとよ、
とうきびを採りに來たとよ。

とうきびはあかい毛だとよ、
波うつてさやりさやりよ。

そろら来た、熊はこはいよ、
そろそろと立つて来たよ。

兄の子は死んだふりだよ。
弟は息もつかずよ。

熊はたゞ、嗅いで行たとよ、
とうきびをしよつて行たとよ。

この話、これでおしまひ、
とうきびを焼いてたべましょ。

・ 庫 文 童 兒 本 日 ・

昭和二年八月五日印刷
昭和二年八月五日發行

日本新童謡集

〔非賣品〕



著 者 北 原 白 秋
編 輯 兼 發 行 者 東 京 市 小 石 川 區 表 町 一 〇 九 北 原 鐵 雄
印 刷 者 東 京 市 小 石 川 區 久 堅 町 一 〇 八 島 潔
印 刷 所 東 京 市 小 石 川 區 久 堅 町 一 〇 八 共 同 印 刷 株 式 會 社

發 行 所

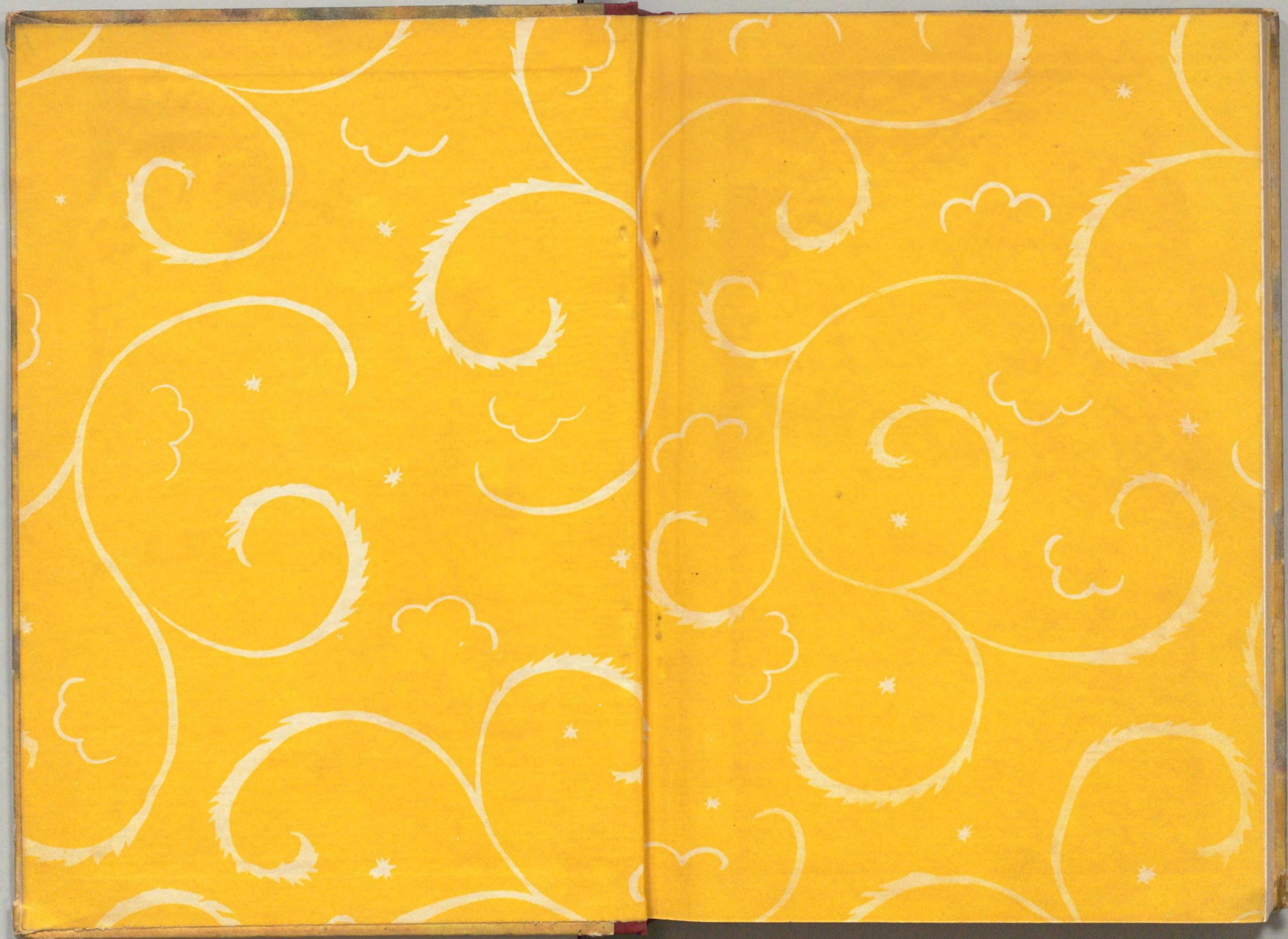
東 京 小 石 川 表 町 一 〇 九
ア ル ス
振 替 東 京 二 四 八 六 番 ・ 電 話 小 石 川 三 七 〇 ・ 四 八 三 番

揚江・本製

日本図書文庫

| | | | |
|--------|-------|---------|---------|
| 日本図書文庫 | 第一巻 | 第一冊 | 第一頁 |
| 第二巻 | 第二冊 | 第二頁 | 第三頁 |
| 第三巻 | 第三冊 | 第四頁 | 第五頁 |
| 第四巻 | 第四冊 | 第六頁 | 第七頁 |
| 第五巻 | 第五冊 | 第八頁 | 第九頁 |
| 第六巻 | 第六冊 | 第十頁 | 第十一頁 |
| 第七巻 | 第七冊 | 第十二頁 | 第十三頁 |
| 第八巻 | 第八冊 | 第十四頁 | 第十五頁 |
| 第九巻 | 第九冊 | 第十六頁 | 第十七頁 |
| 第十巻 | 第十冊 | 第十八頁 | 第十九頁 |
| 第十一巻 | 第十一冊 | 第二十頁 | 第二十一頁 |
| 第十二巻 | 第十二冊 | 第二十二頁 | 第二十三頁 |
| 第十三巻 | 第十三冊 | 第二十四頁 | 第二十五頁 |
| 第十四巻 | 第十四冊 | 第二十六頁 | 第二十七頁 |
| 第十五巻 | 第十五冊 | 第二十八頁 | 第二十九頁 |
| 第十六巻 | 第十六冊 | 第三十頁 | 第三十一頁 |
| 第十七巻 | 第十七冊 | 第三十二頁 | 第三十三頁 |
| 第十八巻 | 第十八冊 | 第三十四頁 | 第三十五頁 |
| 第十九巻 | 第十九冊 | 第三十六頁 | 第三十七頁 |
| 第二十巻 | 第二十冊 | 第三十八頁 | 第三十九頁 |
| 第二十一巻 | 第二十一冊 | 第四十頁 | 第四十一頁 |
| 第二十二巻 | 第二十二冊 | 第四十二頁 | 第四十三頁 |
| 第二十三巻 | 第二十三冊 | 第四十四頁 | 第四十五頁 |
| 第二十四巻 | 第二十四冊 | 第四十六頁 | 第四十七頁 |
| 第二十五巻 | 第二十五冊 | 第四十八頁 | 第四十九頁 |
| 第二十六巻 | 第二十六冊 | 第五十頁 | 第五十一頁 |
| 第二十七巻 | 第二十七冊 | 第五十二頁 | 第五十三頁 |
| 第二十八巻 | 第二十八冊 | 第五十四頁 | 第五十五頁 |
| 第二十九巻 | 第二十九冊 | 第五十六頁 | 第五十七頁 |
| 第三十巻 | 第三十冊 | 第五十八頁 | 第五十九頁 |
| 第三十一巻 | 第三十一冊 | 第六十頁 | 第六十一頁 |
| 第三十二巻 | 第三十二冊 | 第六十二頁 | 第六十三頁 |
| 第三十三巻 | 第三十三冊 | 第六十四頁 | 第六十五頁 |
| 第三十四巻 | 第三十四冊 | 第六十六頁 | 第六十七頁 |
| 第三十五巻 | 第三十五冊 | 第六十八頁 | 第六十九頁 |
| 第三十六巻 | 第三十六冊 | 第七十頁 | 第七十一頁 |
| 第三十七巻 | 第三十七冊 | 第七十二頁 | 第七十三頁 |
| 第三十八巻 | 第三十八冊 | 第七十四頁 | 第七十五頁 |
| 第三十九巻 | 第三十九冊 | 第七十六頁 | 第七十七頁 |
| 第四十巻 | 第四十冊 | 第七十八頁 | 第七十九頁 |
| 第四十一巻 | 第四十一冊 | 第八十頁 | 第八十一頁 |
| 第四十二巻 | 第四十二冊 | 第八十二頁 | 第八十三頁 |
| 第四十三巻 | 第四十三冊 | 第八十四頁 | 第八十五頁 |
| 第四十四巻 | 第四十四冊 | 第八十六頁 | 第八十七頁 |
| 第四十五巻 | 第四十五冊 | 第八十八頁 | 第八十九頁 |
| 第四十六巻 | 第四十六冊 | 第九十頁 | 第九十一頁 |
| 第四十七巻 | 第四十七冊 | 第九十二頁 | 第九十三頁 |
| 第四十八巻 | 第四十八冊 | 第九十四頁 | 第九十五頁 |
| 第四十九巻 | 第四十九冊 | 第九十六頁 | 第九十七頁 |
| 第五十巻 | 第五十冊 | 第九十八頁 | 第九十九頁 |
| 第五十一巻 | 第五十一冊 | 第一百頁 | 第一百零一頁 |
| 第五十二巻 | 第五十二冊 | 第一百零二頁 | 第一百零三頁 |
| 第五十三巻 | 第五十三冊 | 第一百零四頁 | 第一百零五頁 |
| 第五十四巻 | 第五十四冊 | 第一百零六頁 | 第一百零七頁 |
| 第五十五巻 | 第五十五冊 | 第一百零八頁 | 第一百零九頁 |
| 第五十六巻 | 第五十六冊 | 第一百一十頁 | 第一百十一頁 |
| 第五十七巻 | 第五十七冊 | 第一百一十二頁 | 第一百一十三頁 |
| 第五十八巻 | 第五十八冊 | 第一百一十四頁 | 第一百一十五頁 |
| 第五十九巻 | 第五十九冊 | 第一百一十六頁 | 第一百一十七頁 |
| 第六十巻 | 第六十冊 | 第一百一十八頁 | 第一百一十九頁 |
| 第六十一巻 | 第六十一冊 | 第一百二十頁 | 第一百二十一頁 |
| 第六十二巻 | 第六十二冊 | 第一百二十二頁 | 第一百二十三頁 |
| 第六十三巻 | 第六十三冊 | 第一百二十四頁 | 第一百二十五頁 |
| 第六十四巻 | 第六十四冊 | 第一百二十六頁 | 第一百二十七頁 |
| 第六十五巻 | 第六十五冊 | 第一百二十八頁 | 第一百二十九頁 |
| 第六十六巻 | 第六十六冊 | 第一百三十頁 | 第一百三十一頁 |
| 第六十七巻 | 第六十七冊 | 第一百三十二頁 | 第一百三十三頁 |
| 第六十八巻 | 第六十八冊 | 第一百三十四頁 | 第一百三十五頁 |
| 第六十九巻 | 第六十九冊 | 第一百三十六頁 | 第一百三十七頁 |
| 第七十巻 | 第七十冊 | 第一百三十八頁 | 第一百三十九頁 |
| 第七十一巻 | 第七十一冊 | 第一百四十頁 | 第一百四十一頁 |
| 第七十二巻 | 第七十二冊 | 第一百四十二頁 | 第一百四十三頁 |
| 第七十三巻 | 第七十三冊 | 第一百四十四頁 | 第一百四十五頁 |
| 第七十四巻 | 第七十四冊 | 第一百四十六頁 | 第一百四十七頁 |
| 第七十五巻 | 第七十五冊 | 第一百四十八頁 | 第一百四十九頁 |
| 第七十六巻 | 第七十六冊 | 第一百五十頁 | 第一百五十一頁 |
| 第七十七巻 | 第七十七冊 | 第一百五十二頁 | 第一百五十三頁 |
| 第七十八巻 | 第七十八冊 | 第一百五十四頁 | 第一百五十五頁 |
| 第七十九巻 | 第七十九冊 | 第一百五十六頁 | 第一百五十七頁 |
| 第八十巻 | 第八十冊 | 第一百五十八頁 | 第一百五十九頁 |
| 第八十一巻 | 第八十一冊 | 第一百六十頁 | 第一百六十一頁 |
| 第八十二巻 | 第八十二冊 | 第一百六十二頁 | 第一百六十三頁 |
| 第八十三巻 | 第八十三冊 | 第一百六十四頁 | 第一百六十五頁 |
| 第八十四巻 | 第八十四冊 | 第一百六十六頁 | 第一百六十七頁 |
| 第八十五巻 | 第八十五冊 | 第一百六十八頁 | 第一百六十九頁 |
| 第八十六巻 | 第八十六冊 | 第一百七十頁 | 第一百七十一頁 |
| 第八十七巻 | 第八十七冊 | 第一百七十二頁 | 第一百七十三頁 |
| 第八十八巻 | 第八十八冊 | 第一百七十四頁 | 第一百七十五頁 |
| 第八十九巻 | 第八十九冊 | 第一百七十六頁 | 第一百七十七頁 |
| 第九十巻 | 第九十冊 | 第一百七十八頁 | 第一百七十九頁 |
| 第九十一巻 | 第九十一冊 | 第一百八十頁 | 第一百八十一頁 |
| 第九十二巻 | 第九十二冊 | 第一百八十二頁 | 第一百八十三頁 |
| 第九十三巻 | 第九十三冊 | 第一百八十四頁 | 第一百八十五頁 |
| 第九十四巻 | 第九十四冊 | 第一百八十六頁 | 第一百八十七頁 |
| 第九十五巻 | 第九十五冊 | 第一百八十八頁 | 第一百八十九頁 |
| 第九十六巻 | 第九十六冊 | 第一百九十頁 | 第一百九十一頁 |
| 第九十七巻 | 第九十七冊 | 第一百九十二頁 | 第一百九十三頁 |
| 第九十八巻 | 第九十八冊 | 第一百九十四頁 | 第一百九十五頁 |
| 第九十九巻 | 第九十九冊 | 第一百九十六頁 | 第一百九十七頁 |
| 第一百巻 | 第一百冊 | 第一百九十八頁 | 第一百九十九頁 |

日本図書文庫



児乙部全集-N-24



1200600485443

